

リハビリテーション科学学位プログラム（博士前期課程）

Master's Program in Rehabilitation Science

- 修士（リハビリテーション科学）
- Master of Science in Rehabilitation

人材養成目的 / Program Educational Objectives

リハビリテーション関係の研究者、専門職業人に対して、リハビリテーションの包括的基盤教育を行うとともに、国際的・学際的な研究の成果と方法論を習得し、他職種と連携して、職場や社会での諸課題について、科学的・実践的・開発的に解決し、社会に貢献する高度専門職業人や大学教員（研究者）を養成する。

養成する人材像	本学位プログラムにおいては、現職社会人が職場において遭遇し、かつ早急にその解決が求められている諸問題について、広い視野での対応と発展に必要な、総合的・包括的リハビリテーションに関する総合的な能力を有する人材を養成する。とくに、総合的・包括的リハビリテーション領域の中でも現場的課題の科学的解決に関わる実践的な研究能力・開発能力の高い高度専門職業人や大学教員などを養成する。
修了後の進路	社会人大学院生を対象にすることから、現職場（医療・保健機関、福祉・相談施設、学校関係（特別支援学校や特別支援学級を含む）、リハビリテーション従事者養成機関、職業センターや障害者を雇用する企業、法律・行政機関など）において国内・国外のリハビリテーションの指導者の立場で活躍することを目的とする。さらに、修了後、博士課程に進学し、大学や専門学校等に転じて教育・研究分野で活躍することもあわせて目的とする。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士（リハビリテーション科学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	①研究等を通じて知を社会に役立てた（または役立てようとしている）か ②幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	リハビリテーション方法論基礎Ⅰ、修士論文作成、学会発表など
	2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	①大きな課題に対して計画的に対応することができるか ②複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	リハビリテーション概説、達成度自己点検など
	3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	①研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ②研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	リハビリテーション特別研究、学会発表など
	4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	①チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ②自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	リハビリテーション方法論基礎Ⅲ、特別支援教育授業論、学会での質問、セミナーやゼミでの質問など
	5. 国際性：国際社会に貢献する意識	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ②国際的な研究動向に関する情報収集や行動に必要な語学力を有するか	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ、リハビリテーション英語、国外での活動経験、留学生との交流、TOEIC 得点、国際会議発表、外国人との共同研究など
	6. 研究力：リハビリテーション分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	①リハビリテーションに関する適切な研究計画が立案でき、その計画を他者に適切に伝えることができるか ②リハビリテーションに関する適切な修士論文を完成させ、その成果を適切に発表することができるか	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ、リハビリテーション方法論基礎Ⅲ、国内外の専門領域での学会発表・論文発表、修士論文作成など

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	7. 専門知識：リハビリテーション分野における高度な専門知識と運用能力	リハビリテーションに関する高度な専門的知識を習得し、自らも発信できる能力を得られるか	リハビリテーション特別研究、リハビリテーション事例研究、各専門的な学会が開催する研究会や研修会への参加など
	8. 倫理観：リハビリテーション分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	リハビリテーションに関する基礎的な研究能力、倫理観および倫理的知識を得られているか	リハビリテーション方法論基礎 I など、APRIN など関連する内容の e-learning の受講など
学修成果の評価に関する方針	<ul style="list-style-type: none"> - 学修成果の評価は「達成度評価表」に基づく達成度評価によって以下の段階ごとに学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を確認し、評価する。 - 1年次の秋学期「リハビリテーション方法論基礎 II」において文献研究発表並びにプレデザイン研究計画発表の内容を教員全員で研究準備状況の指導を行う。 - 1年次の秋学会の「リハビリテーション方法論基礎 III」において、複数の教員グループによるプレデザイン研究計画に対する指導助言を行う。 - 2年次春学期「リハビリテーション研究法 II」において研究の中間発表会を実施し、修士論文の進捗状況について副指導教員を中心に質疑応答を行う。これを踏まえ、主指導教員が第1段階達成度審査を行い、学修状況の自己点検と審査および指導を行う。 - 2年次秋学期「リハビリテーション特別研究」において修士論文執筆の指導助言を行った上で中間発表会を実施し、研究抄録および発表内容に対して副指導教員を中心に質疑応答を行う。これを踏まえ、主指導教員が第2段階達成度審査を行い、学修状況の自己点検と審査および指導を行う。 - 2年次末には、主査、副査2名が修士論文を査読するとともに、「リハビリテーション特別研究」の単位修得に関わる最終発表（口頭試問含む）において最終達成度審査を行う。 		

<p>学位論文に関する評価の基準</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、リハビリテーション科学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. リハビリテーション科学分野の国内外の発展に寄与するオリジナルな研究成果が修士論文に相応しい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な証拠に基づいていること。 5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等がリハビリテーション科学分野の修士論文に相応しい形式でまとめてあること。 <p>学位論文が満たすべき水準：主指導・副指導教員のいずれもが、上記の1～5を満たしていると判断できること 審査委員の体制：主指導1名、副指導2名 審査方法：修士論文、論文発表会、口頭試問により主指導・副指導教員が総合的に判断 審査項目：修士論文、論文発表会、口頭試問</p>
-----------------------------	---

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

リハビリテーションの4分野（医学的リハビリテーション、特別支援教育、社会リハビリテーション、職業リハビリテーション）にわたる研究力、専門知識、倫理観とともに、学際的なリハビリテーションに基盤の置いた高度専門職業人とリハビリテーション専門職養成校等の高等教育教員等を育成するための基礎素養、幅広い視野、多様な場での活躍を支える汎用的知識・能力を養う教育・研究指導を行う。

<p>教育課程の編成方針</p>	<p>学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、学術院共通専門基盤科目から1単位を履修することを推奨する。</p> <p>具体的な履修科目や副指導体制の配置は個々の学生の研究計画やキャリアプラン等を踏まえて決定する。</p> <p>2年間で問題発見能力や問題解決能力、臨床研究に関する計画能力などの研究リテラシーを獲得して、修士論文を作成するとともに、プレゼンテーション、討議コミュニケーション技法を獲得するためのコースワークを充実させ、臨床研究者としての資質を高めることを念頭に置いている。</p> <p>また、通常の専門分野にとらわれない学際的な教育課程を編成し、高度の総合的視野を備えた有能な人材が育つようにコア・カリキュラムが組まれている。</p>
<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> - リハビリテーションに関わる実践的な研究能力・発表能力については、1年次から各種研究方法に関する講義・実習が行われ、個別や集団による研究指導、発表会が行われる。 - 倫理的な配慮では1年次に倫理審査に関わる講習会や説明会を開催するほか、倫理委員や指導教員を中心に個別の指導行われる。 - 他分野・他領域との協力・連携については、学生や修了生の専門分野・就職先が多様であるため、在学中から、学生・修了生を交えた情報交換や研究協力が盛んに行われる。 - 国際的な視野に立った実践的な研究能力については、「リハビリテーション英語」の講義のほか、海外でリハビリテーション領域の実践・研究で評価の高い大学との交流を行う。

入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p>求める人材</p>	<p>高齢者・障害者・子どもといったライフスパンに対する総合的・包括的なリハビリテーションに関心を持ち、学際的な研究の視点のある研究者および専門職業人を対象にした教育を行う。これに加えて、リハビリテーションの4つの分野（医学・教育・社会・職業領域）を横断的に分析・研究できるリハビリテーションに関わる研究者と高度専門職業人の養成に力点を置いた教育をする。</p>
<p>入学者選抜方針</p>	<p>大学卒業後、リハビリテーション関連分野での実務経験を1年以上有している社会人に対して、入学試験を行う。入学試験は、入試情報公開、オープンキャンパス・入試説明会の実施（4月、5月）を経て、募集は7月中旬を締切とする。8月下旬に入学試験を実施し、10月に翌年4月の入学の合格者を発表する。入学試験は、書類審査、基本的な知識をみるための論述式試験、志望動機に関する面接により評価を行う</p>

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p>学修支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 「リハビリテーション課題研究」の演習科目の受講により、自身の研究成果を国際学会含む関連発表会で実際に発表した内容成果をあらためて発表することで今後の研究課題を探索する機会を与え、さらに「リハビリテーション事例研究」の演習科目の受講により、自身が所属する職場でのリハビリテーション実践事例を事例研究として深化させ、自身の研究を客観的に見直す契機としている。 - 担任を中心に全教員が、社会人大学院生固有の相談内容（仕事と学業の両立、子育て・介護等の家庭状況）について、個々に相談できる体制をとる。社会人大学院生が職場から大学に直行して学習・研究活動ができるように、データ解析室、大学院生研究室の環境を整える。職場との関係等で土日の集中講義を一定時間数確保する。 - 論文投稿をはじめとする研究成果の総括の仕方や、修了後のキャリア形成の具体例などについて、他学位プログラムも交えて幅広い視点から紹介するFDプログラムを定期的に開催している（年2回）。
<p>学生同士の交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 所属年次以外のデザイン・中間・最終発表会への参加機会を提供し、学年を超えた学生同士の共同研究の推進を意図し、院生の交流機会を促進する仕組みを単位取得の一要件として教育課程に組み込んでいる。 - 在籍学生同士、そして学位プログラム修了生との交流機会を図るため、同窓会を開催している。
<p>教員との交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 「リハビリテーション方法論基礎I」のオムニバス授業により複数の教員との交流機会を増やし、「リハビリテーション方法論基礎II」により指導担当教員との交流機会を増やし、「リハビリテーション方法論基礎III」における複数教員との合同授業により、より自身の研究テーマに近い教員との交流機会を増やしている。さらに、1年次のプレデザイン発表会、2年次のデザイン・中間・最終発表会には学位プログラム担当教員全員による質疑応答を経たのちに、懇談会にてさらなる意見交換の機会を増やしている。 - 毎年学生教員懇談会を開催し、カリキュラム、教育研究環境の整備、博士後期課程への進学相談等について比較的インフォーマルに話し合える場を設けている。

リハビリテーション科学学位プログラム（博士前期課程） / 修士（リハビリテーション科学）

Master's Program in Rehabilitation Science / Master of Science in Rehabilitation

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

リハビリテーション科学学位プログラム教員会議及びカリキュラム委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証している。